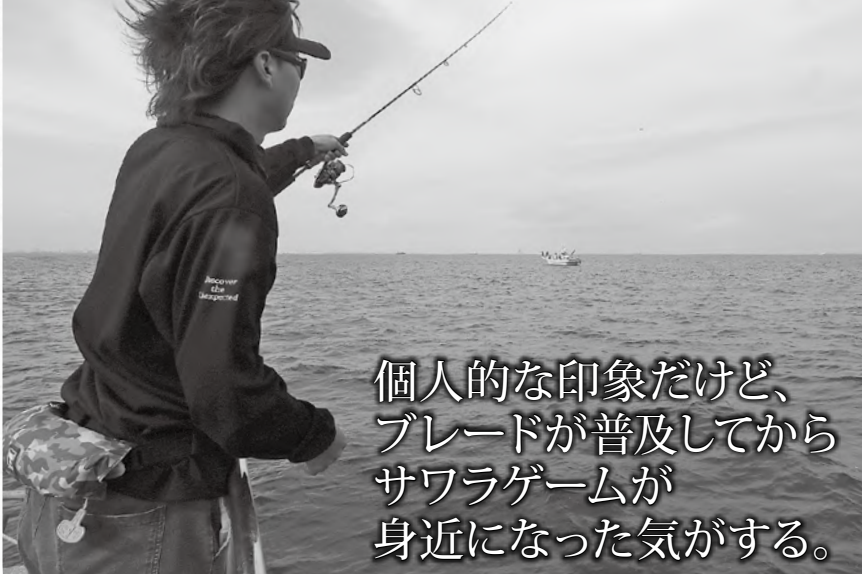


●アンダーハンドでキャストし、早巻きを繰り返す



個人的な印象だけど、ブレードが普及してからサワラゲームが身近になった気がする。



バンブルズ
バイトビーンズ TG
サワラ Special

▲タンクステン製のテールスピニングジグ。コンパクトボディは小さなベイトにマッチ。タダ巻きすると小型ブレードが回転し、フラッシングでサワラにアピールする。サイズは30、40、60、80グラム。カラーは4色



▲東京湾では主に30と40グラムを使う

と鹿島一郎さん、トモキこと板倉友基さん、そしてライターのタカハシゴウが、ヨッシーの竿
ブルード付きルアーを投げて早く巻くだけでサワラが釣れる
ヨッシーがキャストしているルアーは、ジャッカルから10月に発売されるバイトビーンズTGサワラSpecial 40グラム。カラーは超UVシルバード。着水してから10カウントして沈ませ、タダ巻きを始めたらずぐにドン！ときたよ。
でも……、サワラじゃないかもしれない
上がってきたのはタチウオだった。東京湾のルアー青物船ではよく釣れる定番の魚だ。
「いやあ、フッキングした瞬間はサワラかと思ってドキドキしちゃったよ」とヨッシー。
「サワラほど引かないから、途中で『アレ』って(笑)。でも、うれしい1本。とりあえず魚の顔が見られたからね」
ヨッシーの1本を皮切りに、船内にはナイスサイズのタチウオが上がり始めた。
「タチウオとサワラを釣り分けることは、なかなか難しいよね。とりあえず、サワラ狙いの釣りを続けるしかない」

かと思えば、しんと静まり返ったナギの海で、いきなりガツンと食ってくる。法則性があるようで、つかみどころがなく、しまいにはなんの感触もないままりーダーをかみ切って泳ぎ去ったりもする。
神出鬼没の大胆不敵さ。いったんフッキングしたときの引きの強さ。そして、食べたときのうまさ。多くの釣り人をとりこにするサワラなのである。釣ったときの満足感は、ガチだ。
渡辺釣船店のルアー青物船は、その名称が示すとおり、ワラサなど、東京湾の食物連鎖で上位に立つフィッシュイーターを全般に狙う。しかしメインはやはりサワラ。一発に賭ける釣りだ。
ヨッシーこと吉岡進さんも、いつも以上に入念にタックルの準備をしている。
「2、3週間前にサワラ狙いの船に乗ったんだけど、アタリ一発で終わったんだ(笑)。
今はまだ水深30メートルほどのポイントを攻めることが多いから、正直、タナに当てるのが難しいんだ。水深はそこそこあって、サワラは表層から10数メ



▲右胸の間の山口さんが1流し目で5キロのサワラをキャッチ

ツリガチ!

TSURI GACHI

東京湾のルアー青物

文◎高橋剛



★ルアーをキャストして、タダ巻きするだけのお手軽さ。しかし、ドカンとヒットしたときの衝撃はすさまじい。最後まで諦めないアグレッシブな引きが、釣り人をとりこにする——。東京湾屈指のファイター、サワラ。ツリガチ取材班のだれかが釣れば、このファイターとの戦いに勝利したことになる……のだが……。

このワクワク感、ドキドキ感
はなんだろう。何か出る。何か
が起る。いつかきつと、すごい
魚が飛び出してくる——。
今回、我われツリガチ取材班
が乗り込んだのは、東京湾奥横
浜・渡辺釣船店のルアー青物船
メインターゲットは、サワラ
いかつい「悪役顔」とノコギリ
のような鋭い歯、そして最後の
最後まで諦めることがない、ア
グレッシブなファイターである。
ギャンブル性も高い。
ナブラが立ち、狂ったように
ベイトを追い回しているときは、
このモンスターは積極的にルアー
を追いついて、船上では複数の竿が
同時にひん曲がり、大にぎわい
になることもある。

東京湾のモンスターが吠えた。早くも大本命のサワラが!?

先注目する。
サワラか? 早くも大本命のサワラが——!?
「サワラ狙いの釣り」は、それほど難しいことではない。ヨッシーがタチウオを釣ったやり方ルアーをキャストして、10カウント沈め、タダ巻きをする。この繰り返しだ。
「東京湾のサワラゲームは、方法論がだいぶしっかりと確立してきているんだ。
今の時期はベイトが小さいから、バイトビーンズのようなコンパクトなフォルムのルアーと、小型ブレードの組み合わせが定番で、タダ巻きが一番よく釣れるとされている。
基本は早巻き。回収でヒットすることも多いから、かなりの早巻きでもいいと思う。
ただ、金子船長いわく、その中でもボーズを入れたり、ジャークを入れたりして、イレギュラーな動きが発生した瞬間に食ってくることも多いらしい。
まあ、日によって正解は

ートルは泳いでいる可能性があるからね……。
もう少しシーズンが進めば浅場の釣りになる。15メートル前後のポイントになれば、ボトムからトップまで探るのは容易なんだけど。今はちょっと難しいのは確かだ」
それでも、可能性はある。港を離れてから20分後、船がスピードを落として釣りが始まると、いきなり東京湾のモンスターが吠えた。
なんと釣り開始からわずか5分後、右胸の間のお客さんの竿が強く激しく引き絞られた。
「あの暴れっぷり、あれはガチでサワラだね」と、右ミヨシのヨッシーも興奮気味で注目している。
落ち着いたヤリトリと、金子船長の的確なタモ入れでネットインしたのは、なんと5キロの良型サワラだった。
突然の、強烈な一撃。「サワラはいる——」とボルテージは上がる一方で、少ないチャンスが早くも訪れてしまったよう、不安もよぎる。
その10分後。
「きたよ!」
ヨッシーの鋭い叫び声が、その不安を吹き飛ばした。
ツリガチ取材班のイチロウこ

当日のルアー船で見つけた 東京湾のルアー青物で 〇〇しがち+シーン

ラインを切られがち



▲ツリガチ取材班のトモキはリーダー、タカハシゴーはPEラインを切られてルアーもロスト。犯人の可能性はサワラ、タチウオ、そしてサバブグか!?

ベイトのサイズをチェックしがち

▶ベイトにルアーのサイズを合わせるマッチ・ザ・ベイトが有効なルアー釣りではベイトのサイズがカギとなることも

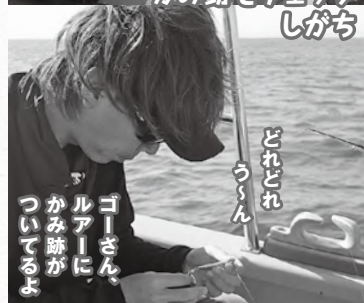


ツーショットしがち

▲当日はブレード付きルアーの早巻きでとにかくタチウオがよく釣れた。ヨッシーとトモキのダブルヒットを記念してツーショットを撮る



かみ跡をチェックしがち



★ルアーに魚のかみ跡が付いていないかチェック。おそらくサワラが食い付いたであろう新しくできたキスを発見!

識せずに巻いているとルアーは浮き上がってくるが、サワラは表層を泳いでいることも多い。つまり、ビギナーでもチャンスがあるということだ。
「実際、『今日が初めて』なんていう人がサワラを釣ることも珍しくない。
それでも、日によって釣れる人、釣れない人がどうしても出てくるのが、サワラゲームの面白いところかな。
タックルバランスとか巻きスピード、ちょっととしたアクションなんかで釣果に差が出るんだ。あと、これを言っちゃナンだけど、運の要素も少なからずある」

第二海堡を横目に、約8メートルの浅場ではイナダが遊んでくれる。サワラはなかなか姿を見せない。ポイントを変える。時は過ぎる。
午後2時10分、中ノ瀬の水深18メートルのポイントで、左舷の間のお客さんが2.8キロのサワラをキャッチ。その12分後、トモキもサワラと思しき魚をヒットさせたが、またしてもバラしてしまった。
「今のは怪しかったね。バレるのはたいいていサワラなんだよ」という金子船長のアナウンスに、

「んあつ、キタツ」と大きな声をあげたのは、ツリガチ取材班のトモキだ。
明らかにタチウオとは違う、強力な引き。サワラだ……とあれもが思った瞬間、フツと竿先が軽く戻った。
「リーダーから切られちゃいました……」と肩を落とすトモキ。間違いないサワラだっただけに、悔しさもひとしおだ。
続けてタカハシゴーが、PEから切られてしまった。これは

また、タダ巻きとは言え、フッキングに持ち込むにはワザが必要だ。
ヨッシーは、「基本的に合わせないほうがいい」と言う。
「サワラはベイトを吸い込むのではなく、歯でかじってくる。だから、合わせるとスッポ抜けてしまうんだ。
アタリがあるとドキッとすると、慌てずそのまま巻き続ける。巻き合わせのほうがフッキング率は高いよ」

「上げ潮になるまで、ちょっと南下してワラサを狙ってみますね」と金子船長のアナウンス。観音崎沖、水深50メートルのポイントで10グラム前後のジグを使う。
ジギングもドシンというアタリがくるか、これもワクワクだ。残念なことには不発に終わり、1時間ほどで第二海堡の沖まで戻ることになったが、一発勝負のスリリングさは楽しめた。

「ただ、タチウオやイナダは、1本釣れるとバタバタと元気がよく続く。船にぎやかさと活性を与えてくれる大事な存在だ。ヨッシーもバイトビーンズをキャストし続けるが、サワラは応えてくれない。
「船長も言ってたように、運要素が大きいのがサワラ。これは明日どうなるかはサワラ次第。ムズ面白さを思い知らされた」



★左舷の間のお客さん池澤さんは初挑戦で2.8キロ

「でも、今日も平日だけど満船でしょうか? 金子船長が言ったようにサワラゲームのハードルが下がって、人気の釣り物になったよね。
今日は残念だったけど、明日どうなるかはサワラ次第。これは、また来ちゃうよね」とリベンジを誓うヨッシー。
「バイトビーンズTGサワラSPECIALは、4色の専用カラー。スイベルアシストにはチューブを装着してあって、フックの絡みを防止してるんだ。小さいけど強力な武器となってくれるコイツで、絶対にサワラを釣る——」
秋の気配を感じさせる方々の涼風に吹かれながら、熱く燃えるヨッシーであった。

★トリヤマを発見するとイナダの群れに遭遇。パンプズ バイトビーンズ TGサワラSpecialの早巻きで食ってきた



タチウオとサワラを釣り分けることは、なかなか難しいよね。とりあえず、サワラ狙いの釣りを続けるしかない。

●フッキングした瞬間はサワラかと思っただがヒットしたのは、タチウオだった

「手強い。そう簡単には釣れない。だからこそサワラ釣りは面白い」
恐らくタチウオ。PEラインのメーカーを狙ったのだろう。金子船長はアグレッシブにポイントを変える。「どうにか釣ってもらいたい」という意気込みが伝わってくる操船に、キャストする腕にも力がこもる。
午前8時40分、トモキに再びサワラらしき魚がヒット。ジギング……とドラッグを引き出したが、すぐにバレてしまった。
手強い。そう簡単には釣れない。そして、だからこそ面白い。

「潮がみがスカッと抜けてしまうので、タダ巻きしていても安定しません。バイトビーンズのほうが安定してるかな」と、悩んでいる。
船は浅場のポイントに向かった。水深15メートル前後。ヨッシーが言っていた「ボトムからトップまで探りやすい」深さだ。午前9時15分、右トモのお客



★右トモの中村さんは2.6キロと3.5キロのサワラを釣り上げた